



命 いのち・・・の話

趣味で、野草のすみれを鉢植えにして育てています。たくさんの種類があって毎年次の年の花を楽しみにしています。

ところが、2、3年前、スミレを食草（蝶は、幼虫の時期に食べる葉の種類が決まっていますそれ以外は食べない）にしている、簡単に言うとスミレを食べる、ツマグロヒョウモンという蝶の幼虫がつき、むしゃむしゃと葉っぱを片っ端から食べ丸坊主にしてしまいます。でも、せっかくだから何とか育てて無事に蝶にしてあげたいと思いました。

ところが、家にあったスミレはすぐに食べ尽くされて丸坊主になり、スミレの葉っぱを探して狭い庭ですが庭中を歩き廻ります。放っておくとお腹がすいて死んでしまいます。

この、幼虫たちのすごい食欲に応えようと、近所の野原や道端を散々苦勞して探しまわり、てんてこ舞いの末なんとか庭にいた幼虫の食欲を満たして、たくさんの（4、50匹かな）さなぎが並び、やがて蝶になって飛んでいきました。スミレたちの命を分けてもらい、ちっちゃいけれどたくさんの命が育っていったのです。この蝶、もともとはもっともって南の方にしかいなかった蝶々です。地球の温暖化といって、地球全体が人間の暮らし方によってだんだん温かくなっている証拠かもしれません。このまま温まっていくと地球が壊れてしまうという怖いお話もあります。

さて、2、3年前のそんな出来事のおかげで、その時のスミレが去年も、今年も芽を出し、春には花がきれいに咲き、庭中にいろんな寄せ集めのスミレのたくさんの葉が青々と茂って風に揺れています。それこそスミレだらけ、緑あふれる庭でした。

去年の話です。

『ところが、今年もいたのです、ちっちゃな黒い幼虫が。それもたくさん・・・。』

そういえばきれいなツマグロヒョウモンがよく庭のブッドレアの花に来ていたのをたびたび見かけていました。

ひえええ、今年は（去年）すごい数。見る見るうちにスミレの葉っぱが食べられて茎だけです。去年よりもたくさんスミレの葉っぱはあるから・・・、と書いていたのですが、甘かったのです。幼虫が150匹近くいたのです。あっという間にどの鉢のスミレも、どのプランターのスミレも、そして二はで揺れていたいろいろなすみれの葉が、あっという間に食べられてしまい土が見えています。去年と同じにスミレ探しで走り回る羽目になってしまいました。

そんななかで、つくづく『こんなに小さいのに、ちゃんと生きている、考えて動いている、小さいけれど一つ一つが命なんだなあ。不思議だなあ。』と思うことがいくつもありました。

この子達、葉っぱが残り少なくなると、ベランダや庭を、えさを求めてわいわい（言うわけではありませんが）歩き廻ります。そして、新しい、葉のたくさんついているスミレの苗を植えると、それこそ150匹一斉にわいわい新しい苗のほうに移動します。黒い塊がえさを求めて、行ったり来たり、他の動物とかわりません、「わあいわあい」（と言うわけではありませんが・・・）、とっても嬉しそうです。

そんな中で、命のかけがえのなさも感じました。

さなぎから羽化して蝶になるとき、失敗して片方の羽が縮んだままの蝶がいました。自然界だったらこの子はすぐに敵に見つかり逃げられずに死んでしまいます。可愛そうに思い、脱脂綿にぬるま湯で溶いた砂糖水をたっぷり染み込ませ、口ふんというストローのような蝶の口を針のようなもので伸ばして、その先を砂糖水に触らせ自分で飲めるようにしました。この子はもうひと月近く週間以上生きています。自然界に飛んでいる蝶より長生きかもしれません。生きていれば、命さえあれば何とかその命を守ることはできます。

でも、こんな蝶がいました。さなぎから羽化しました。でも何だか様子がお腹も真っ黒で、羽も縮んだまま。何だかさなぎの殻がくっついたままのような様子で小さくふるえています。でも、次の日に砂糖水をあげれば、大丈夫だろうと、そのままにしておきました。

でも・・・、次の日、この子はそのまま土の上に落ちて死んでいました。こんな小さくてもちゃんと命があって、生きていさえすれば何とか助けてもあげられます。でも、死んでしまったこの子は二度と動きません。

命は亡くしてしまったら、取り戻すことはできません。昨日ふるえていたこの子はもう動けないのです、ふるえることもできないのです。他の子達のように餌のある方に、わあいわあいと行くことも、羽を広げて飛ぶこともできません。こんな小さいからだの中にもちゃんと命があるのです。

誰にもたった一つの「い・の・ち」。

大切ですね。

※ 子ども達、何時になくじっと聞いてくれたような気がしました。



※ 家でかえった（羽化した）ツマグロヒョウモン♀